

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 5 年 5 月 15 日 報告者：佐藤 聖子

行事種別	研究会	行事番号	230000308	
開催日	令和 5 年 5 月 13 日（土）			
時 間	開 始	15 : 00	終 了	17 : 30
場 所	リップルスクエア			
テーマ	血尿・貧血からわかる希少疾患			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	藤田医科大学病院 長嶋和子、佐藤聖子			
講 師	講演 1. 血尿からせまる疾患とアプローチ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 野村 勇介 講演 2. 貧血からせまる疾患とアプローチ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 入谷 康太 講演 3. 血尿、貧血からみつける希少疾患～PNH、aHUS～ アレクシオンファーマ合同会社 日高 亮			
内 容	本研究会は血液検査研究班と一般検査研究班の合同研究会として開催した。 希少疾患ではあるがゆえに血液内科医以外は診断経験がなく見逃されやすいと言われている、発作性夜間血色素尿症（HUS）と非典型溶血性尿毒症症候群（aHUS）に焦点を当てたテーマを取り扱った。 講演 1 では一般検査研究班より、血尿に遭遇した場合にどうするかを「血尿診断ガイドライン」に即した解説が行われ、医師の視点も含めて学ぶことができた。 講演 2 では血液検査研究班より、実際の症例提示では必要な追加検査も交えながら貧血について簡潔且つわかりやすい解説が行われ、貧血の原因が整理できた、という感想が多かった。 講演 3 では PNH と aHUS についてくわしく解説していただいた。臨床検査技師が見つけることで診断に寄与できた例についても情報提供され、今後の業務の励みになる内容であった。 講演 1、2 で WEB 参加者には Zoom の投票機能を用いて問いかけを行い、現地参加者は挙手により回答いただくことで、全員参加型の講演であったことも好評であった。			
参加者	総数：42 名（会員 42 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：47 名			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 5 年 5 月 16 日 報告者：佐藤聖子

行事種別	研究会	行事番号	230000319	
開催日	令和 5 年 5 月 13 日（土）			
時 間	開 始	15：00	終 了	17：30
場 所	ライブ配信			
テーマ	血尿・貧血からわかる希少疾患			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	藤田医科大学病院 長嶋和子、佐藤聖子			
講 師	講演 1. 血尿からせまる疾患とアプローチ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 野村 勇介 講演 2. 貧血からせまる疾患とアプローチ 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 入谷 康太 講演 3. 血尿、貧血からみつける希少疾患～PNH、aHUS～ アレクシオンファーマ合同会社 日高 亮			
内 容	本研究会は血液検査研究班と一般検査研究班の合同研究会として開催した。 希少疾患ではあるがゆえに血液内科医以外は診断経験がなく見逃されやすいと言われている、発作性夜間血色素尿症（HUS）と非典型溶血性尿毒症症候群（aHUS）に焦点を当てたテーマを取り扱った。 講演 1 では一般検査研究班より、血尿に遭遇した場合にどうするかを「血尿診断ガイドライン」に即した解説が行われ、医師の視点も含めて学ぶことができた。 講演 2 では血液検査研究班より、実際の症例提示では必要な追加検査も交えながら貧血について簡潔且つわかりやすい解説が行われ、貧血の原因が整理できた、という感想が多かった。 講演 3 では PNH と aHUS についてくわしく解説していただいた。臨床検査技師が見つけることで診断に寄与できた例についても情報提供され、今後の業務の励みになる内容であった。 講演 1、2 で WEB 参加者には Zoom の投票機能を用いて問いかけを行い、現地参加者は挙手により回答いただくことで、全員参加型の講演であったことも好評であった。			
参加者	総数：88 名（会員 72 名、県外会員 16 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：158 名			
共催、後援など				

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 5 年 6 月 19 日 報告者：杉原 幸子

行事種別	基礎講座		行事番号	230001422	
開催日	令和 5 年 6 月 10 日（土）				
時 間	開 始	15 : 00		終 了	17 : 30
場 所	ライブ配信				
テーマ	日当直で困らない尿沈渣の基礎（上皮・血球編）				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	名古屋掖済会病院 杉原幸子				
講 師	1. 上皮細胞の見方 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 西尾 祐貴 2. 血球の見方 医療法人 青山病院 平田 基裕 3. ケーススタディ 藤田医科大学 ばんだね病院 進藤 龍太郎				
	講演 1.上皮細胞の見方は、基本的上皮細胞類、変性細胞・ウイルス感染細胞、異型細胞類について構成部位、臨床的意義、形態学的特徴、鏡検時の注意点、類似細胞との鑑別方法について多数の沈渣画像を提示し、分かりやすく解説していただきました。参加者からは「上皮細胞の特徴を詳しく説明して、総合的に判断して鑑別をすることが出来た。」とのご意見を頂くことができました。 講演 2.尿沈渣の基本的成分である赤血球、白血球について、臨床的意義、形態的特徴、類似成分との鑑別法について多数の沈渣画像を提示し、詳しく解説して頂きました。赤血球形態については症例を用いて疾患による形態の違いをより詳細に説明して頂きました。また血球が多い尿の対応の仕方についても述べられ、参加者からは「血球の多いときの対応の仕方など普段気になっていたところを説明していただき良かったです。」とのご意見を頂くことができました。 講演 3. ケーススタディとして小児の IgA 血管炎に伴う紫斑病性腎炎症例を提示し、その疾患背景、診断の流れ、経過観察する上で何が重要な成分であるか判断する知識、今後どのような病態に陥る可能性があるかを解説されました。類似する IgA 腎症との鑑別について述べられましたが、「よく分からなかった」とのご指摘もあり、腎炎の難しさを再認識し今後も取り扱っていく必要性を感じました。 今回の講演は日当直業務において最低限押さえて欲しい内容であり、「とても分かり易い内容で勉強になりました。」や、「類似細胞の鑑別点を並べて表示されていて分かり				

	やすかったです。」「基礎に戻って勉強できて良かったです。」とのご意見を頂きました。質問も多くあり、大変有意義な研修会となりました。 現地開催が増えてきているなか本年度も WEB 開催で行われ、県外会員の参加も多くみられました。より慎重な配信テストを実施し定刻に配信することができましたが、途中「音声にノイズが入って聞きとりにくい」「声が遠い」などの指摘があり、ライブ配信の難しさを感じました。 来年度は現地開催も含め、様々な意見や情報を共有できより満足度の高い開催方法を模索したいと考えます。
参加者	総数：218 名（会員 107 名、県外会員 111 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：344 名
共催、後援など	

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 5 年 7 月 10 日 報告者：望月 里恵

行事種別	基礎講座	行事番号	230001433
開催日	令和 5 年 7 月 8 日（土）		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 35 分
場 所	ライブ配信		
テーマ	日当直で困らない尿沈渣の基礎（円柱・結晶編）		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	社会医療法人明陽会 成田記念病院 望月 里恵		
講 師	1. 円柱の見方	J A 愛知厚生連 豊田厚生病院	伊藤 彰洋
	2. 結晶の見方	藤田医科大学病院	長 嶋 和子
	3. ケーススタディ	愛知医科大学病院	小野内 健太
内 容	講演 1.円柱の基礎知識、円柱の分類・報告法、各種円柱の特徴について多数の沈渣画像やフローチャートを用いて解説をして頂きました。アンケート結果では「鏡検時のポイントとして効率よく見落としが無いように見る方法が勉強になりました」「円柱内に成分が含まれているか否か、成分の鑑別ポイントとしてピントをずらしての提示が見やすく解りやすかった」との意見を頂きました。 講演 2.塩類は出現意義や析出した時の尿の外観、鏡検方法などについて、結晶は出現意義、形成機序、治療法、出現時の考え方、各結晶の特徴について多数の画像を用いて解説をして頂きました。今回は鑑別方法として実際の結晶成分の溶解の様子を動画で示しており、アンケート結果で「参考になりました」との意見を頂きました。 講演 3. ケーススタディとして熱帯熱マラリアにより急性腎障害になり、多数の顆粒円柱が出現した症例の提示でした。血液像の画像を用いて種類の鑑別法や臨床症状、腎機能障害についての解説をして頂きました。マラリア自体が珍しく、貴重な症例のため、アンケート結果で「勉強になりました」との意見を頂きました。 今回は、日当直で困らない尿沈渣の基礎（円柱・結晶）というテーマで講演しました。アンケート結果で「よくわかった」「わかった」との回答が多くありました。鏡検方法や鑑別ポイントなど対処方法を見やすいスライドと多数の画像を用いて、動画などを工夫して提示したことにより、「一人で悩まずに結果を報告することが出来る様になる」「職場で試したい事が沢山あり、有意義な時間でした」との意見を頂き、テーマに沿った基礎講座が行えたかと思います。今後も実際に現場で活かせるような講演が出来るように、アンケート結果を参考に改善していきたいです。		

	WEB 開催のため今回も多くの県外の方にも参加して頂きました。配信は概ね大きな問題も無く行うことが出来ました。今後の基礎講座については、WEB 開催、現地開催についてメリット・デメリットを踏まえて開催方法を研究班で考えていきたいと思います。
参加者	総数：195 名（会員 98 名、県外会員 97 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：287 名
共催、後援など	なし

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 6 年 2 月 18 日 報告者：望月 里恵

行事種別	研究会	行事番号	230023000	
開催日	令和 6 年 2 月 10 日（土）			
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 30 分
場 所	藤田医科大学 3 号館 218			
テーマ	令和 5 年度愛臨技精度管理報告会、見やすい医療スライドの作り方			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司 会	藤田医科大学病院		長 嶋 和子	
講 師	1.令和 5 年度愛臨技精度管理報告会 新城市民病院 服部 聡 修文大学 医療科学部 蜂須賀 大輔 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 野村 勇介 2.見やすい医療スライドの作り方 株式会社ビー・エム・エル 顧問 山崎 家春			
内 容	講演 1.は令和 5 年度愛臨技精度管理調査の結果報告と解説を行いました。尿定性検査、便潜血検査はおおむね良好な結果であり、便潜血検査の定量値のばらつきは昨年度より改善して例年並みの結果が得られ、フォトサーベイは正解率が 80%を下回る設問が 2 問でそのうち 1 問は評価対象外としたとの報告でした。フォトサーベイの解説はフィードバックして理解を深めるために、全ての設問に対し写真を提示しながら鑑別のポイントを中心に行いました。 講演 2.は見やすい医療スライドの作り方についての講演を行いました。研究班が提供したスライドの添削と解説をして頂き、その後にプレゼンテーションに必要なこととして、スライド作成の工夫や留意点、発表まで準備、発表時に意識することの教示を受けました。プレゼンテーションを行うにあたり医療スライドとして注意が必要な点もあり、今までの反省し今後に役立つ講演でした。			
参加者	総数：29 名（会員 28 名、県外会員 1 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）			
共催、後援など	なし			